



受賞者の活動紹介

特定非営利活動法人 あそびとまなび研究所

市民部門

活動名

くきのうみこどもフードパントリー



活動目的

さまざまな経緯で集まった食品や雑貨などを預かり、子育て家庭を中心に、みんなでシェアする活動を行っています。子どもたちとの毎日の活動は、「おもちより」「わけあえばたりる」「ないならないで、ないなりに」「もったいないをみんなでシェア」がモットーです。さまざまな団体や組織との協働で、フードドライブ(集める活動)やフードパントリー(配る活動)の地域への浸透を目指し、一般市民の皆さんにも参加をお願いしながら継続しています。

活動概要

日々の暮らしの中でできる身近で安全な直接的なやり取りによって、食品や生活用品をシェアしあい、コロナ禍で、学校や幼稚園、企業や公共施設がすべて閉鎖されても、市民同士でつながりながら子育てを守る取り組みを実施。協働している団体や組織は多種多様で、各活動会場において、ミニフードパントリーの実施、ロス食品の受け入れ、広報啓発を行っています。

2009年頃から継続していた子供会様活動から、2014年に派生し誕生した「子ども食堂 あーぶくたった」。「地元の旬をみんなで作って食べる活動」を活動拠点「ひびきのbase」にて毎月2~3回開催。コロナの一斉休校時点より全ての活動を屋外へ移し、活動を継続。加えて週2~3回の食品配布活動「あおぞらこどもフードパントリー」を開催。寄贈された絵本やおもちゃ、教材の配布や、学習支援なども実施しています。



ひびきでの「あおぞらこどもフードパントリー」の様子。寄贈されたさまざまな食品の中から、自分で食べるものを選んで持ち帰ってもらいます。



市民センターの横の公園でお出かけあおぞらフードパントリーを開催。非常に多くの参加者があり、多数の質問が寄せられた。この後、この地域では、子ども食堂がひとつ誕生することになる。

成果と今後の展望

見学者、参加者、ボランティアの学生や市民など非常に多くの人々の力により、活動は継続実施されています。普段出会うことのない人々との出会いや活動はコロナ禍ではなおさら稀有な機会でもたらされる品々からも多くの学びがありました。食品ロスや暮らし方そのものへの疑問、持続可能な社会とは何か、日々の暮らしの中で自分が実現できることは何かを、関わった方々と互いに学び合っています。

コロナ禍にあって、2020年3月から休まず活動。「おでかけフードパントリー」は、市内各所、学校から出られない学生のために高校や大学内で実施するなど、新たな協力者との出会いや、活動の広がりがあります。とてもシンプルな活動なので、いろいろな場所での多様な活動とのコラボも可能で、今後も多くの場所で多くの皆さんとともに取り組み、参加者、理解者の拡大を求めて活動を継続していきます。



夏休みに北九州市環境ミュージアムにて、お出かけフードパントリー&ドライブの開催。ボランティアで活動に参加する市内の高校生に活動の背景や目的、仕組みとルール、寄せられている食品や文房具の紹介などを行っているところ。

主な協働機関	市民センター、企業、教育機関、公園施設、NPO、商店街、放送局、新聞社、イベント会場
選考委員からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 多彩な組織・団体との連携で、持続可能な社会づくりに「食」からアプローチし、人材育成にもつなげている。 ● 「遊び」「学び」を媒介にした活動を、コロナ禍でも工夫をしながら頻度を保ち、継続的に展開している。 ● 実施回数、提供食材の概算量、届け先数などを数値化し、持続可能なソーシャルビジネスモデルとして、普及啓発に努めてもらいたい。
SDGs未来都市計画との関連性	<ul style="list-style-type: none"> ● 官民連携による「子ども食堂」 ● 近所、リサイクル、屋外、予約制とし、蜜を避ける新しい生活様式